



## 第69回 “社会を明るくする運動”

明石地区推進委員会 高校生エッセイコンテスト優秀作品

(明石市:優秀賞/兵庫県:佳作)



### 地域の繋がりが最大の防犯



明石市立明石商業高等学校 横山 愛華

2019年7月18日、京都アニメーションの放火・殺人事件が世間を騒がせた。そんな中、私は地域の人々がはしごを使って女性を救助したり、被疑者の目撃者が多数いたことに関心を持った。こうした地域の人々の繋がりが、防犯に繋がったり、少しでも被害を減らすことができるのではないかと思った。

私が考える犯罪のない地域社会を作るための方法は3つある。1つ目は、地域の繋がりを強くすることだ。地域の繋がりを強くすることで人々の目が鋭くなり、最大の防犯になると考える。地域の繋がりを強くするためには、まず近所の人々と仲良くなることが大切だ。例えば、毎朝の通勤や通学の際、挨拶を交わすなどのコミュニケーションをとる。こういった当たり前の習慣が、近所づきあいから地域全体へと広がっていくことで、繋がりを深めることができる。実際に、近所づきあいの低下が、犯罪件数の上昇と関係があるというデータもある。地域の強い連携が犯罪者を寄せ付けなくなるのだろう。

2つ目は、綺麗な町づくりをすることだ。もし私が犯罪者なら、落書きやポイ捨てされているゴミが1つもない町と、落書きがありゴミがたくさん落ちている町。どちらが犯罪をおこしやすいのか考えてみると、当然落書きがありゴミがたくさん落ちている町である。犯罪者の立場から考える

と分かりやすい。綺麗な町だと管理が徹底されていて隙のない町だととらえることができるが、汚い町だとその逆で、犯罪者が入ってきやすい環境になってしまうことが分かる。また、ゴミ出しの日にちを守るなど、地域のルールを守ることも綺麗な町づくりに貢献する。このように、私は、綺麗な町づくりを心がけることで防犯に繋がり、町が綺麗になると人々の気分も良くなり、一石二鳥だと思う。

3つ目は、活気のある町であること。活気がなく、雰囲気はどんよりとした町は、人々が近寄りにくく、犯罪者にとっては好都合になってしまう。活気のある町にするには、小さな子供たちのエネルギーが必要だ。公園などで響きわたる、子供たちの元気に遊ぶ楽しそうな声は、町に活気をもたらすと考えられる。そのためもっと子供たちを外で遊ばせることが重要だ。

この3つの方法を実現させるために私は、近所の人々との挨拶を欠かさずに、コミュニケーションを大切にしていこうと思う。また、私の地域にはみんなで清掃活動を行うことがある。そのような地域の取り組みに積極的に参加して、繋がりをよりいっそう深めていきたい。私が考える犯罪のない地域社会を作るための3つの方法はどれも「地域」や「町」といった連携が必要となるものだ。個人でも犯罪をなくすために行動をしていくことは大切だが、1人の力では難しいだろう。しかし、地域全体で取り組めば、最大の防犯になるだけでなく、災害が起こった場合にも助け合い支え合うことができる。地域の繋がりは強くあるべきだ。